

巡検報告

佐 渡 巡 検

山 崎 幸 江

7月9日から12日にかけて、式先生指導による佐渡巡検が行われた。一行には大学院の高橋・奥山両先輩も参加され、総勢24名であった。

ほとんどが新幹線で新潟まで向い、新潟港からフェリーで両津港へという経路をとったが、当日は土曜であったためフェリーは混みあい、2等の私達は甲板にむしろを敷き、2時間30分ひたすら耐えた。(ちなみに東京～新潟は1時間50分。新潟～両津の方が時間がかかるとは。)

3時、両津港に全員集合し、地元の方の案内によりマイクロバスで出発した。まず加茂湖及び國中層露頭を観察する。加茂湖はカキの養殖で知られているが、近年は汚濁が進み、真野湾への移転・水の若返り等の対策が講じられているとのことであった。

また、佐渡はもう1つのカキ(柿)も有名であるが、そのパイロットファームにも立ち寄った。もとの雑木林を国の事業によって柿園としたもので、その大方は渋ぬきの後「おけさ柿」として出荷されるが、その他柿から醸造する酒も作られているという話でたいへん驚いた。

他に、環濠集落・江戸末期の能舞台、国分寺跡等も見、この日は大佐渡南端の民宿に泊まった。

翌朝、夕・朝食に登場したイカを釣っていらっしやる民宿の御主人から漁業・民宿業のお話をうかがってから2日目の行動を開始した。

民宿近くの段丘上で、地形・水利と土地利用の関係について先生・先輩方から説明を受けた後、佐渡おけさのポスター撮影場所となっている春日岬へ向った。春日岬からは典型的な海岸段丘を望むことができる。春日岬より少し北に行った所の相川町中心部では、ちょうど十日ごとの市場が開かれていて、衣料品・食料品等の店が並び、土地の人々の生活が感じられた。

隆起波食台の千畳敷を見て、いよいよ金山へむかう。ヘルメットをかぶって坑道を歩けるのではという期待は裏切られたが、道遊の割戸(露頭坑跡)、三菱旧鉱山街・無宿人の墓等からは活況であった当時の様子がしのばれた。

時間の関係上尖閣湾は省略され、途中砂丘のタバコ・球根栽培を見学して、小佐渡の次の宿泊地へ向った。この2日間は暑い中マイクロバスに乗ったり降りたりで、タフと言われる私達も少々疲れ気味であった。

3日目は地理学科3年の本領発揮、集落調査が行われた。小佐渡南端の沢崎から4名ずつ6班に分かれ、それぞれが1～2集落に出かけた。巡検でのこういった調査は入学以来3度目とあって皆慣れたもので、地元の人々ともすっかり親しくなったようであった。その夜の話題も自分達が行った所に関するものが多かった。

巡検最終日は内藤電誠工業とマルダイ味噌合資会社を訪れた。内藤電誠はNEC系列の電子部品工場で、昭和40年頃に「島内に近代産業を」ということで誘致されたものである。それに対して味噌工場は、原料米・気候条件等に恵まれ、明治時代から続いている。設備の整った内藤電誠もその立地・現在までの過程等の面で興味深かったが、どちらかと言えば伝統的な味噌工場の大きな樽、需要の変化への対応の様子等の方が強く印象に残っている。

島という特殊な環境におかれていて、中世からの文化的なものが重層する中に近代的な産業も存在する佐渡は、人文・自然の両面から多角的な観察の可能な所で、私達も有意義な4日間を送ることができた。

(7月9日～12日 式教官指導)